秋田県立博物館研究報告第27号　19～22ページ　2002年３月
Ann. Rep. Akita Pref. Mus., No.27, 19-22, March 2002

秋田市金足女潟の鳥類相

船　木　信　一*

Avifauna of Megata , Kanaasi , Akita City , Akita Prefecture

Shin-ichi Funaki*

Ⅰ　はじめに

近年，ラムサール条約が広く認知され，鳥類の生息環境としての湿原の重要性が再認識されてきており，全国で湿原の鳥類調査が行われている．秋田市金足女潟は，貴重な湿原植物群落として昭和62年に県の天然記念物指定を受けている．この女潟の鳥類相に関する報告は，周辺の小泉潟地域を含めたものとして，佐藤（1986）がある．しかしながら，この報告は湿原の周囲の二次林等の環境に生息する鳥類も記録したものとなっており，純粋に湿原だけを利用している鳥類相に関する報告はまだなされていない．本調査は対象地域を湿原内に限って継続調査していくものであるが，今回は今年度行った春期～初冬期までの調査で得られた知見を報告する．

Ⅱ　調査地の概要

女潟は秋田県秋田市北部の平野に位置し，隣接する男潟とその周辺地域を含めて，小泉潟公園として，県民の憩いの場となっている．男潟が約35.6haのほぼ全面が開放水面であるのに対し，女潟（約23ha）の大部分はヨシ・マコモが繁茂し，ガンカモなどの水鳥以外の鳥類も多数生息している．潟の最も外側はハンノキ林で低木のヤナギなどが自生している．今回の調査対象区域に含まない潟の周辺部にはコナラ二次林やスギ二次林があり、他に様々な植物が植栽されている．

Ⅲ　調査方法

調査は，女潟周辺にある散策用の歩道を歩きながらのラインセンサス法と水面を見ることのできる高台２カ所からの定点観察法を用い，潟の内部に出現したすべての鳥類を記録した（図１）．ただし，単に通過のために潟の上部を飛来した鳥類については，調査の対象外とした．種の識別にあた

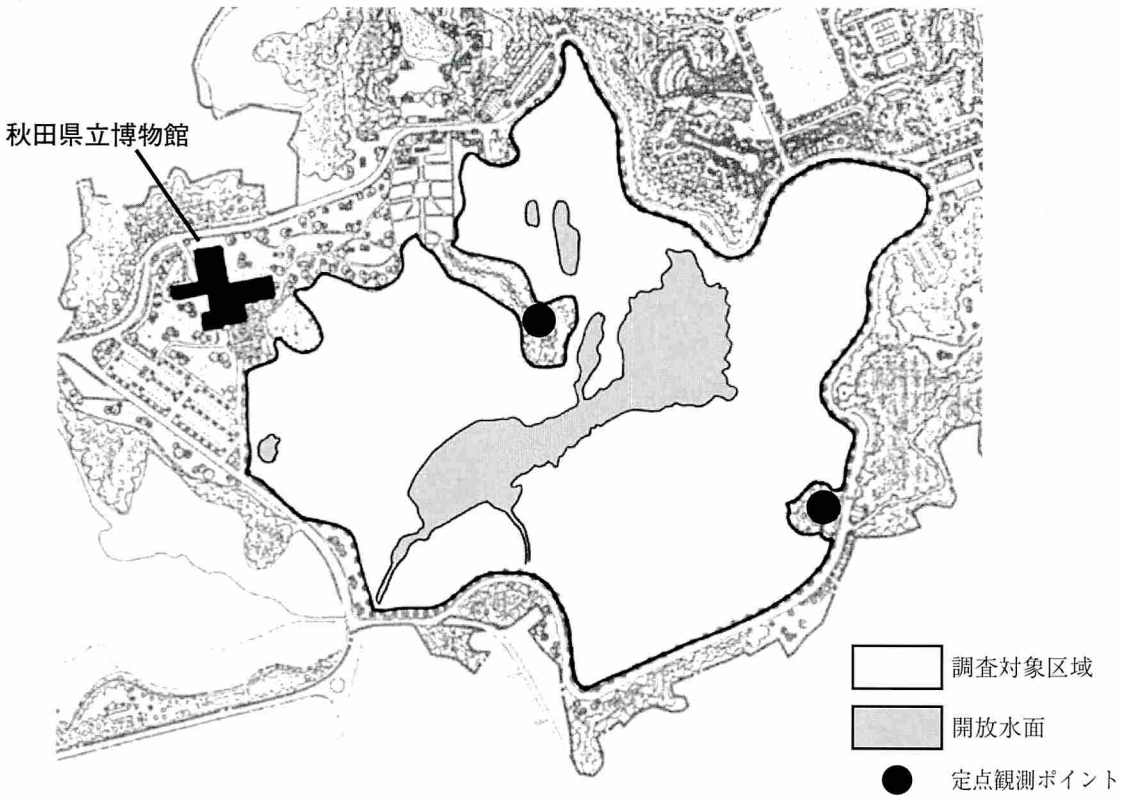

図1　調査地概要

*秋田県立博物館　　Akita Prefectural Museum

っては，ラインセンサス法では８倍の双眼鏡，定点観察法では20倍の望遠鏡を用いた．また，ヨシに隠れて姿を確認できないものでも，声で種の同定が可能であったものについては，記録に加えた．

Ⅳ　鳥類相の概要

今回は冬期間が未調査であり，鳥類相の全体像を報告することはできないが，それ以外の期間についてはおおよそ以下のようになっている．

１．４月～６月中旬

マガモ，コガモ，キンクロハジロ，カルガモ，カイツブリ，オオバン等の水鳥が優先する．また，採餌のために訪れるアオサギ，ダイサギなどのサギ類が開放水面の周辺部に，周囲から巣材を求めてやってくるシジュウカラ，ヤマガラなどのカラ類等が潟の最外部で見られる．また，水面近くで小昆虫を狙うツバメの姿が多く見かけられる．

２．６月下旬～９月下旬

ヨシの中で繁殖するオオヨシキリが圧倒的に優先し，一面オオヨシキリのさえずりで満たされる．また，同じく潟で繁殖しているカイツブリ，オオバン，バンなどの水鳥の声が時折ヨシの茂みの中から聞こえ，巣立ちした雛を連れた姿を見かけるようになる．８月以降になると，ほとんどの鳥類が繁殖を終え，それまでの喧噪が嘘のように静かで安定した状態になる．

３．10月初旬～12月中旬

夏鳥が去り，冬鳥がやってくる時期で、優先するマガモに加え，ヒドリガモ，オナガガモ，カルガモ等が少ない開放水面に姿を現すようになる．また，これらカモ類を狙うハヤブサの姿などもときおり見受けられるようになる．カモ類にとってヨシは猛禽類の攻撃から逃れる絶好の隠れ家になっているようである．12月になり，気温が下がって水面が結氷すると，カモ達は禁漁区の開放水面を求めて移動し，潟は静寂に包まれる．

４．その他

今回の鳥類目録には入れないが，実際に女潟のまわりを歩くと，目録にあげた33種以外の鳥類がよく見かけられる．今回の調査では，直接には潟を利用していなかったものの，目録にあげた鳥類となんらかのかかわりを持ちながら生活しており，また、今後の調査で潟の利用が確認される可能性もあるので、参考までにあげておく．

・キジ科	キジ
・キツツキ科	アオゲラ
・　〃	アカゲラ
・　〃	コゲラ
・ヒヨドリ科	ヒヨドリ
・ヒタキ科	ウグイス
・　〃	キクイタダキ
・　〃	オオルリ
・シジュウカラ科	コガラ
・　〃	ヒガラ
・メジロ科	メジロ
・ホオジロ科	アオジ
・アトリ科	ウソ
・カラス科	カケス

また、潟上空が渡りのルートになっているために建物に衝突して斃死したものとして、

・ヒタキ科	トラツグミ
・　〃	センダシムシクイ
・　〃	メボソムシクイ

があげられる．

図2　オオバンの親子

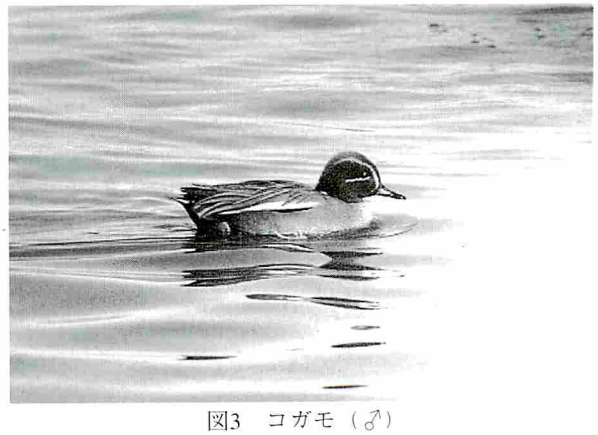

図3　コガモ（♂）

V　生息する鳥類の利用目的

今回の調査で観察された鳥類の潟の利用形態を表1に示す.

表1　女潟に生息する鳥類の利用形態

種　名	繁　殖	採　餌	備　考
カイツブリ	○	○	
ゴイサギ		○	
ダイサギ		○	
アオサギ		○	
マガモ		○	
カルガモ	○	○	
コガモ		○	
ヒドリガモ		○	
オナガガモ		○	
ホシハジロ		○	
キンクロハジロ		○	
トビ		○	
ノスリ		○	
ハヤブサ		○	
バン	○	○	
オオバン	○	○	
キジバト		○	
カッコウ	○	○	
ツバメ		○	
ハクセキレイ		○	
モズ		○	
ルリビタキ		○	
ツグミ		○	
オオヨシキリ	○	○	
エナガ		○	巣材調達
ヤマガラ		○	巣材調達
シジュウカラ		○	巣材調達
ホオジロ		○	
カシラダカ		○	
カワラヒワ		○	
スズメ		○	巣材調達
ムクドリ		○	
ハシボソガラス		○	
ハシブトガラス		○	
計	6種	33種	

Ⅵ　鳥類目録

Family PODICIPITIDAE　　カイツブリ科
1. *Podiceps ruficollis*　カイツブリ
F. ARDEIDAE　　サギ科
1. *Nycticorax nycticorax*　ゴイサギ
2. *Egretta alba*　ダイサギ
3. *Ardea cinerea*　アオサギ
F. ANATIDAE　　ガンカモ科
4. *Anas platyrhynchos*　マガモ
5. *A. poecilorhyncha*　カルガモ
6. *A. crecca*　コガモ
7. *A. penelope*　ヒドリガモ
8. *A. acuta*　オナガガモ
9. *Aythya ferina*　ホシハジロ
10. *A. fuligula*　キンクロハジロ
F. ACCIPITRIDAE　　タカ科
11. *Milvus migrans*　トビ
12. *Buteo buteo*　ノスリ
F. FALCONIDAE　　ハヤブサ科
13. *Falco peregrinus japonensis*　ハヤブサ
F. RALLIDAE　　クイナ科
14. *Gallinura chloropus*　バン
15. *Fulica atra*　オオバン
F. COLUMBIDAE　　ハト科
16. *Streptopelia orientalis orientalis*
キジバト
F. CUCULIDAE　　カッコウ科
17. *Cuculus canorus*　カッコウ
F. HIRUNDINIDAE　　ツバメ科
18. *Hirundo rustica gutturalis*　ツバメ
F. MOTACILLIDAE　　セキレイ科
19. *Motacilla alba lugens*　ハクセキレイ
F. LANIIDAE　　モズ科
20. *Lanius bucephalus*　モズ
F. MUSCICAPIDAE　　ヒタキ科
21. *Tarsiger cyanurus*　ルリビタキ
22. *Turdus naumanni eunomus*　ツグミ
23. *Acrocephalus arundinaceus*　オオヨシキリ
F. AEGITHALIDAE　　エナガ科
24. *Aegithalos caudatus*　エナガ
F. PARIDAE　　シジュウカラ科
25. *Parus varius varius*　ヤマガラ
26. *P. major minor*　シジュウカラ
F. EMBELIZIDAE　　ホオジロ科
27. *Embeliza cioides*　ホオジロ
28. *E. rustica*　カシラダカ
F. FRINGILLIDAE　　アトリ科
29. *Carduelis sinica minor*　カワラヒワ
F. PLOCEIDAE　　ハタオリドリ科
30. *Passer motanus*　スズメ
F. STURNIDAE　　ムクドリ科
31. *Sturnus cineraceus*　ムクドリ
F. CORVIDAE　　カラス科
32. *Corvus corone*　ハシボソガラス
33. *C. macrorhynchos japonensis*
ハシブトガラス

Ⅶ　要約

2001年４月から12月まで，秋田市金足女潟の鳥類を調査した結果，19科33種の鳥類の利用が確認された．このうち，繁殖が確認されたのは，５科６種である．

Ⅷ　文献

佐藤武視，1986：小泉潟公園周辺の鳥類 ―1976年以降の記録から―．秋田県立博物館研究報告（第11号）,123―135.